

副 本

令和2年度 第2回吉川市総合教育会議録

令和2年10月5日（月）

令和2年10月5日 令和2年度 第2回吉川市総合教育会議

開会の日時	令和2年10月5日 午後3時00分
閉会の日時	令和2年10月5日 午後4時35分
会議開催の場所	美南公民館洋会議室1・2
<p>会議に出席した構成員の氏名</p> <p>吉川市長 中原 恵人</p> <p>吉川市教育委員会 教育長 戸張 利恵</p> <p>教育長職務代理者 中島 新太郎</p> <p>教育委員 小林 照男</p> <p>教育委員 鈴木 真理</p> <p>教育委員 荒井 一美</p>	
<p>構成員以外の出席した者の職・氏名</p> <p>○市長部局の出席者</p> <p>副市長 椎葉 祐司</p> <p>政策室長 野尻 宗一</p> <p>○教育委員会事務局の出席者</p> <p>副部長兼学校教育課長 馬場 重弘</p> <p>教育総務課長 石田 和親</p> <p>生涯学習課長 岩上 勉</p> <p>学校教育課学校支援担当主幹 兼少年センター所長 砂賀 正史</p>	
傍聴人 0人	
<p>会議に付議した事項</p> <p>(1) ICTを活用した今後の学校教育のあり方について</p>	

○石田教育総務課長 ただいまから令和2年度第2回吉川市総合教育会議を開会いたします。

傍聴人はいらっしゃいますか。

(傍聴人入場)

議事に入る前に、傍聴上の注意を申し上げます。受付でお配りしました傍聴要領をお読みいただき、遵守していただきたいと存じます。また傍聴要領に反する行為をした場合には退場していただくこととなりますのでご注意ください。それでは本日の会議録の署名委員を決めたいと存じます。「吉川市総合教育会議運営要綱第5条第3項」の規定により、鈴木委員、荒井委員にお願いしたいと存じますが、よろしいでしょうか。

[「了解」という声あり]

○石田教育総務課長 本日の協議事項はICTを活用した今後の学校教育のあり方について市長と意見交換をしていただきます。会議時間は概ね1時間30分とさせていただきます。それでは市長から開会の言葉をいただきます。

○中原市長 改めまして皆さんこんにちは。大変お忙しい中本日は参集いただきありがとうございます。確か前回は教育委員会会議の後、引き続き忙しく皆さんのお時間をいただき思っています申し訳なかったと思っています。本日は先ほどの視察からということで非常に未来を感じることができ同時に今後の課題を考えていかななくてはならないと思っています。またこうした機会を作ってください、清水校長先生をはじめ小学校の関係者の皆様に深く感謝を申し上げたいと思います。今回はICT教育がテーマとなっております、今日を迎えるまでに長い時間がかかったと思っております。私が市長に就任したのが6年前であります全国的にもICTが叫ばれている中で、吉川市はあまり焦らないということを出しました。ICT機器が先行することで様々な弊害があるのではないかと、まずは教育大綱をしっかりと作らせていただき、様々な視察を重ねて、吉川市のICTをどのように目指すのかと教育委員会の皆様と一致した感覚を持って進めていきたいと。今回のコロナによりラッキーな形で一気にインフラの整備が進むことになりました。本日は三つに分けて、これまでの全国的なICTの流れ、今回のギガスクールの構想、そして今後の吉川市の方向、この三つについて説明をさせていただきます意見交換をさせて頂いて、本日何かを決定するというのではなく、教育委員の皆様が感じていることをご意見としていただき、今後の教育行政にしっかりと反映していきたいと思っておりますので、忌憚のない意見をいただきたいと思っております。本日は皆さん宜しくお願い致します。

○石田教育総務課長 ありがとうございます。それでは、これより進行につきましては中原市長にお願いしたいと思います。

○中原市長

○馬場副部長兼学校教育課長 それでは担当指導主事から説明をさせていただきます。

○広井副主幹・石田教育総務課長

【資料「ICTを活用した今後の学校教育のあり方について」説明】

○中原市長 ここまでの視察と説明を踏まえて皆さんと意見交換をしたいなと思います。鈴木委員保護者目線でもよろしくお願いたします。

○鈴木委員 まずは子供たちがとても楽しそうに授業を受けていたのは本当に良いことだと思います。タブレットの操作について子供たちはずっと入ってくるのかなと思います。教材としてはとてもやりやすいのではないかと思います。視察や映像を見てとても幅が広がるのではないかと思います。子供たちがやれることがたくさん広がっていくのだろうなと思いました。タブレットを使ってどのようなことを子供たちがするのかとてもワクワクしました。うまく使っていたきたいなと思いました。

○中原市長 視察の中でうまくできる子と、できない子がいましたが、今後ICT支援員は毎回いるわけではないですよね。先生一人で今後授業は大丈夫なのでしょうか。不安を少し感じました。教育長どうですか。

○戸張教育長 私も何名かの児童に話を聞きましたが、速やかに操作をしている子供には家で週3回はiPadを使っていると。iPadは家にはないがインターネットは家でやっていると。要するにもともとお子さんが情報のリテラシーの部分で若干の差があるとは思いますが、自動女さんがIDの入力等を全員でしていましたが、いわゆるパソコン教室で文字入力という学習を積み重ねてきたということだと思います。一人ひとりのお子さんのそれぞれのリテラシーを考えながらしっかりとピンポイントで支援していく必要があると考えます。

○中原市長 ICT支援員が学校に来て全てのクラスを支援するわけでないと思いますが。その辺はどうですか。

○広井副主幹 日の授業のようにできること強要していくということが最も大切なことだと思います。聞いて慣れる、聞いて使えるようになった方が分厚いマニュアルを見るより

も子供達は身について参ります。子供達同士の教え合いも子供の学びを深くするものだと考えています。

○**中原市長** 簡単に言えば子供達同士でフォローし合いながら全体としてみんなで学んでいこうということのをベースにして行くということですね。荒井委員どうですか。

○**荒井委員** まず子供たちが非常にのびのびとしていること。そして担任は狙いとして子供たちが興味を持つようなクイズ形式にしながら技能を身につけていく。そういう授業だったかなと思います。1年生はどうかかなと ICT 支援員に尋ねましたが、1年生でもどんどんやっていますよということでした。質問ですが、30ページのところで1人1台端末の活用の中で、小学校8校と吉川中学校にという説明がありましたが、34ページのところでもミライシードは小学校と吉川中学校とあります。残りの3中学校に関してはどうなっているのかと疑問に思った点です。

○**石田教育総務課長** 教育総務課よりお答えさせていただきます。1人1台端末については全ての学校に整備の計画をしております。教育ソフトにつきましては従前から入っているものがリースで契約をしておりますが、3中学校につきましては残り2年半契約が残っておりますので現時点ではミライシードの導入につきましては明確には決まっておりません。

○**荒井委員** ミライシードに代わるソフトが入っていると考えるとよろしいですね。

○**石田教育総務課長** パソコン教室にあるWindowsのパソコンに学習支援ソフトが入っております。

○**荒井委員** 吉川市の中学生全員を考えた時に少し下がるのかなと思いましたが、先生方の能力が必要だと思いましたが、是非指導力や技能を先生自身が付けられるように実践していただきたいと思えます。私の時代はパソコンが導入された時期です。研修も何回もやりましたが、起動させるだけで1時間かかってしまうというような時代でした。是非活用して先生も子供も 力をつけて欲しいなと思いました。

○**中原市長** 今のタブレットは立ち上げて10秒以内で電源が入っていましたね。荒井委員のお話の中で、吉川中学校以外の3中学校では入っているソフトがまだ2年の契約が残っているのでそのまま使用する。その後ミライシードをそこに入れていくということのいいのですか。

○**石田教育総務課長** 現在のところでは残りリース期間が2年ありますので3中学校は使用していきます。

○**中原市長** そこに吉川中学校と3中学校で差が出るのではないかという点は、参考に入れてしまうと金額がどれくらいかかるのか。

○**石田教育総務課長** 5年間で2,000万ほど かかります。ライセンスを買い取り分です。

○**中原市長** 三中学校に5年間で2,000万かかるということか。今の契約を切ってミライシードを導入すると2,000万必要ということでもいいのか。

○**石田教育総務課長** 今ある契約を切りますと違約金とリース分は支払わなくてははいけないので2,900万円かかります。

○**中原市長** 分かりました2,900万円かかるんですね。中島委員ご意見お願いします。

○**中島教育長職務代理者** 今日は大変ありがとうございました。授業の感想ですが、市内の小中学校に今年度中に1人1台端末を整備していただくということに、市長をはじめ教育委員会事務局の皆さん素早い対応でありありがとうございます。授業を見ていたわけですが、私が現役の時代は黒板とチョーク、それが今ではタブレットという全く違う授業となっている。子供たちが喜んで授業に取り組んでいる。子供達があんなに喜んで学習しているところを見まして、今後ああいう形で進めていってもらえたら子供の学習がさらに向上していくのではないかと強く感じました。ぜひ吉川市のICT教育をこのまま進めていただければと思います。吉川市の教育大綱やSDGSのようないわゆるこれから持続可能な社会をこれから作っていくという目標を子供たちに教育していかななくてはならないと思いますが、目標をしっかり掴んで進めていただければと思います。些細なことですが、今日は支援員が来ていましたが、ICT支援員はタブレットに関することを指導しますが黒板に漢字を書いた時に漢字が間違っていたため子供達は誤って覚えてしまうのではないかと。子供達はあの漢字が正しいと思ってしまうと思います。是非支援員には漢字ひとつも間違えないように気をつけていただきたいと思います。少し感じたことですが、使うことを習慣化する子供たち全員が習慣化できるのか。持って帰れば子供達はやると思いますが、保護者によっては無理解な保護者もいるので、子供によっては習慣化することは難しい子もいるのではないかと思います。タブレットの使用について非常に早くできる子と、そうでない子の格差をどのように今後考えていくかということが大事だと考えます。

○**中原市長** ありがとうございます。非常に元先生ならではの視点と思いました。確かにICT支援員さんも教室の中に入って子供たちに指導しているので、ICTを支援するだけではなく子供達への教育者と言う感覚も必要だと思います。その点は今後しっかり指導

するようにお願いしたいと思います。次に教育長もおっしゃったように、家庭での格差、個人の能力の格差の部分について教育長はどのように考えていますか。

**○戸張教育長** 非常にこの点については一長一短にはできないと思っています。子供達というのは学びながら覚えると言う。まさに共同で学習をすることで覚えていくと思います。ただし家庭においてはもっと保護者の方に吉川市はこのようなICT教育をやっていくということをしつかりとわかりやすく、段階を踏んで学校の実情に合わせながら、吉川市のICT教育を保護者に伝えていく必要があると思っています。今はおそらくパソコン教室にパソコンがあるらしいぐらいの認識、保護者によって認識はバラバラなのではないかと思います。そこについては学校の実情に合わせながらしっかりと保護者に伝えていく必要があるのではないかと考えております。

**○中原市長** 美南小学校でアンケートとったと思います。インフラの整備で家庭にインターネットの環境があるかどうかのアンケートだと思いますが。南地区であつても結構環境が揃っていない家庭があつたと思うが。保護者同士の間隔はどうですかね。

**○鈴木委員** 質問ですが各学校にアンケートは行ったのですか。まずは無線LANが整っていないと、インターネットに使わないとこのタブレットは使えないので。このタブレットは家に持ち帰って学習するのか。それとも学校で使用するのか、それによつても変わってくるのではないかと。南小学校でのアンケートでも家庭に無線LAN環境がない家があつたということなので、全小中学校となると格差があるのではないかというふうに思いました。周りの保護者の中でもGIGAスクール構想が話題になることはまずありません。これが事実だと思います。吉川市はタブレットを1人1台整備し、このコロナの状況でもしっかりと学習できるように準備しているということを話することはできますが、家に無線LAN環境がない家は どうすればいいのと質問を聞いたことはあります。まずは主として把握していただき、家庭の事情により整えられない家庭もあると思うので、無線LANの貸し出しなど吉川市の方で支援はできると思うので、しかし通信料というところも出てくるので負担というのはどのくらいになるのか。子供たちに同じ教育をとる点ではどうなるかお聞きしたいと思います。

**○中原市長** タブレットを家に持ち帰るのかその点はどうか。

**○石田教育総務課長** 今のご質問であります、学校での活用を最優先と考えますが、心配されますコロナでの学校が一時的に休校になることも考えられますので、そういった時には家庭に持ち帰ることも想定しています。家庭に無線LAN環境がない家庭にはモバイ

ルルーターをお渡しして家庭でもタブレットが使えるようにハード整備については準備をしております。通信料につきましても通信会社と相談しましてなるべく利用しやすい料金を検討しております。

○**中原市長** 学校に来れば一律で使うことができるが、家庭で児童生徒が平等にというのは、すべて公的なお金で見るとかというのは。

○**鈴木委員** 第2波、第3波が来た時に学校が急に休業になった時に、タブレット端末が整備されているのに一律にできないとなると家庭の事情で格差がでるのではないのでしょうか。

○**中原市長** 整っていない家庭には貸し出しを考えているということだよ。

○**石田教育総務課長** こちらでもどれぐらいのご家庭に必要なのかということ进行调查しております、国の基準から計算いたしますと、どこの市町村でも一律ではありませんが調査結果で出ておりますので、それに合わせまして台数整備をしております。使用料につきましても生活保護準要保護のご家庭につきましても支援がありますのでそういったものを活用しながら使っていただければと思います。

○**中原市長** 荒井委員、保護者の周知についてアプローチは可能かと思いますが、PTAなど皆さんに知ってもらう周知方法があると思いますがどうですか。

○**荒井委員** 生活様式が変わってきておりAIが導入されてきている。ICTに使われる人間ではなくICTを使う人間にならなくてはいけないとすごく思っています。保護者にとっては身近なところから入っていかないと学校で1人1台タブレットが配られて勉強すると言われてもどうしてそれが必要なかわからない保護者もいると思います。AIを使いこなせる人間になっていく、パソコンが使える技能を身につけて社会に出て行く。そういうことが大事だということを保護者に言わなければならないと思います。なぜ今ICTなのかというところを保護者が納得するような周知をしなくてはならないと思います。学級懇談会などにおいて最初の3分でも5分でも冒頭で先生方が保護者に向けてICT教育に関する話をするとか、校長先生が行事のある機会に何かに関連付けながら話して保護者に浸透させていくのが必要かと思っております。家庭に無線LAN環境がない家などは、例えば公民館などに無線LANが入っている環境があれば全員は行けなくてもタブレット持って行って、時間の制限は必要かと思っておりますがそんなことができればいいのかなと思っております。

○**石田教育総務課長** 荒井委員からお話がありましたが家に無線LAN環境がない家庭においては、今後は調整が必要ですが、場合によっては公共施設等、様々なところで活用し

ていただければと思います。

○**中原市長** 授業参観、懇談会は行なっていますか。毎年6月ぐらいに行っていると思いますが。今日みたいな授業を保護者に少しずつ見せて理解していただくなどどうか。家庭への周知などを少し意識してもらいたいと思います。

○**馬場副部長兼学校教育課長** 今年6月は厳しかったので行っておりませんが、懇談会などは少しずつ始めています。

○**中原市長** 小林委員お願いします。

○**小林委員** 何点かありますが、今日の授業で気になった点ですが、IDの入力についてですが、IDの入力やパスワードの入力については大変重要なところで、今日は詳しく説明していませんでしたが、1時間、2時間もっと時間をかけてやらないと、IDは自分の名前、パスワードは自分を証明するものなので、もっと時間をかけてやらないとこれが流出するだけで個人情報の流出ですから、これが自分の身を守る術であるので今日初めての授業なのでそこを5分で終わってしまったところに恐怖を感じました。ここが最初の段階で不安に思ったところですよ。次に授業のところと言うと、僕は全てをデジタル化する必要はないと思っています。デジタルとアナログはバランスよく使いこなしていくものだと思います。今日の授業の進め方はあまりにもアナログすぎる。先生の説明は紙に書いたものを黒板に貼って説明しており、これではアナログすぎるのではないかと思います。最初の説明の段階で先生が使いこなせていない。先生が少しアナログだったのではないかと思います。操作についても今はICT支援員がいるのでいいですが、本来であればこれは先生一人で教えることができなければいけない。今日はICT支援員が操作をして授業をしていました。これでは操作をする人を常に人に置かなければ授業ができないということになってしまいます。今の課題は授業の中、先生一人で操作し授業をする仕組みを考えていかなければいけないと。ICT支援員も黒板に字を書いていたが、その操作こそタブレットでできるのではないのでしょうか。吉川中学校の映像ですか、プロジェクターの使い方ですが、同じプロジェクターを保育園でも使っています。このプロジェクターの良いところは板書ができることです。タブレットと同じようにできるプロジェクターです。でもそれを使っていませんでした。先生がまだ機器を使いこなせていないということです。小学校でもプロジェクターと板書を並行して使っている。それでもいいですが、プロジェクターを2台使えば簡単に出来ると思います。機材の使い方がまだ上手に使えてない。ICT支援員が先に進めない子供に積極的に教えていましたが、1人1台端末に固執しすぎて

いると思います。使い始めの時期は二人一台で使い方のカリキュラムを最初に作る。つまりもし遅れている子がいても二人でやっているといふ子供達が共有することができる。1人1台だと送れている子を孤立させてしまうので、グループでやっていたら共有化することができます。そうすることで先生が複数いなくても授業ができる。子供同士で教え合いながら授業がすすめると。全体的なことになりますが、1人1台端末を導入することによって非認知能力や吉川市の教育大綱を実現していくという話がありましたが、エビデンスはどうやって取るのでしょうか。エビデンスをしっかりと取るといふことを同時進行でやらなければならないと思います。ミライシードが3中学校に入っていないといふのは、私はそれでもいいと思っています。ミライシードがまだ良いものだといふエビデンスは取れていないと思います。ミライシードに絞るのではなく別のものを使っている実証もしなくてはならないと思います。だとすれば慌ててミライシードを導入するのではなく他のエビデンスを取るチャンスなので、ミライシードを入れたところ、入れていないところ、両方でエビデンスを取ってしまえば何が正解だったのかわかると。リース期間があるのであれば慌てる必要はないと思います。家庭内での無線LAN環境の補間する話がありましたが、もともと家庭内に無線LAN環境がなければ使えないシステムではないと思います。無線LAN環境は双方向を想定しているので必ずしも授業をそう方向にする必要はないと思います。家庭内でやる場合は例えばデータを持ち帰らせてまた持って帰って来ればそこに無線LAN環境は必要ないと思います。必ずしも無線LAN環境が必要な授業を作らなければいい。授業でプレゼンなどがあるのであれば家で考えて作ってきて学校に来たらそれをアップロードしてというような仕組みができると思います。授業についても、学校でデータをタブレット内に保存して家に帰ってそれを見ると。必ずしも家に通信環境が無かったとしても使いこなせるはず。そこは大きな心配ではないかと思ひます。

保護者についてですが、私もICT教育を始めた時にそこが課題となりました。まず始めた時に保護者の方々がこれを良しとするか。2015年に保護者へ調査をしました。全体の8割が小学校へ上がる前にスマートデバイスを使っているという結果でした。2015年ですので今はもっと進んでいると思ひます。家庭内でのデジタル環境についてもデータはすぐ取れると思ひます。傾向として出たのは、100件のうち4件から5件大反対という結果でした。今はもう少し少なくなると思ひます。結局ICT教育を推進していく上で何がネックになるかといふと、コンピューターやスマートフォンを使うと目が悪くなるという都市伝説的な話があつて、それは本当に影響を及ぼすのかとことを発信していかな

くてはならなくて、ICT教育を推進していこうという方達が集まって社会に対して提言を出そうと。大学教授や専門家が提言を出して ネットなどに出しました。これで保護者対策をしました。それにプラスをしてサッシなどを作り、ICTと行った時にタブレットを使ってゲームをやるなど完全な誤解から、ICT＝ゲームと言うイメージがあるのでゲームではなくて、リテラシーやなぜ必要なのかということカリキュラムの一部などをサッシにして全ての家庭に配布しました。あと毎月ICTについて今月はどのようなことをやっているかということ活字ベースでお知らせしました。それにプラスして年一回発表会を吉川の公民館の大ホールを使って子供たちが、稲の生育について5分間のプレゼンテーションを作って、マイクを使ってプレゼンテーションしました。保護者に対してICT機器をこのように使っていますと。プレゼンテーション大会などを吉川市で小学校6年生になるとプレゼン大会があって、市長賞があったり教育長賞があったり、うまくICT機器を使ってプレゼンテーションの中身を考えて人前で話すコミュニケーション能力を学ぶと。ミライシードだけではなく プレゼンテーションなどを見せて保護者の理解を得て学校側でさらに進めて行くという循環ができるかと。特にGIGAスクール構想など保護者が考えている方などいないと思いますので。まずはそこから説明し始めていくといいかと思います。

○**中原市長** ありがとうございます。ルールやモラル、セキュリティなどが非常に今後大事になるし、使いこなせば使いこなすほどいじめなどにつながってくるのでその点を今後検討して重点に置いて欲しいと思います。家庭内の無線LANの話ですが、今後コロナなど遠隔的にやりとりをしながら授業を進めていくということを考えると、無線がないところで宿題だけ出すような形だとちょっと厳しいと思います。生活困窮の所にはしっかりと補助をしながら、なるべく家庭の状況も揃えて行けるのであれば揃えて行っていいと思います。

○**小林委員** 双方向で遠隔で授業ができるという非常に大切なことですが、遠隔授業の仕方についてきちんとまだ準備ができていない。学校の先生が通常の授業の形を黒板の前で板書をしながらおこなっても大人でも5分もちません。大人でさえその集中力は無理です。子供に飽きさせない授業の作り方を研究しなくてはならなくて、カメラで正面から先生と黒板を映してもそのプレゼンテーションは教室内では成立しても画面の中では成立しません。先生方もプレッシャーで耐えられないと思います。斜めからの映像や表現方法など、普通の教室の照明では全く映りません。双方向での授業についてはまだ時間がかかると思

います。先生のテクニックもそうで、教室のスタジオかも必要でカメラマンや照明など作り上げてからでない。そういう意味では全ての家庭内に無線LANはまだ急がなくてもいいかと思えます。

○**中原市長** ありがとうございます。状況整理がされていけばより早く進むのではないかなと思うので、先ほどの授業もそうですがもっとデジタル化できるのかなと思うので、整備の方は進めながら、先生の指導力やリモートでの授業のあり方など研究を重ねてほしいなと思います。エビデンスの部分ですが、旭小学校にタブレットを入れた時はエビデンスをとって子供たちのやる気や持続力的な物がある程度数値化できたと思います。今からどういったことを非認知能力として蓄積していくかということ、向上していくかということなどエビデンスを蓄積してトライしてもらいたいと思います。ミライシード全ての学校に入れなくてもいいというご意見も頂いたので、実験と言うと言葉が悪いですが、入っているところと入らないところの差があるのかということ踏まえて事業展開してもらえればなと思います。最後に保護者の件ですが、保護者に向けて紙ベースであったり、授業参観であったりなるべくこうした取り組みをして頂くと同時に、子供たちや先生のモチベーションになると思うので是非発表会を検討していただきたい。いきなり大きな大会でなくとも、学校ごとでやれる校長先生にリーダーシップを発揮していただき学校で進めてそこに市長や教育長がお邪魔して見させて頂き好評させていただくことも構わないと思うので、是非組み立ててほしいなと思います。お時間も過ぎてしまったのでまとめさせていただきます。

ようやく一歩目が進めたと思っています。その中で皆さんからしっかりとした意見を頂いたのでこれを踏まえてインフラの整備とソフトの充実、指導力の充実をはかって行きたいと思います。よろしく願い申し上げます。本日はありがとうございました。

○**石田教育総務課長** それでは以上をもちまして、令和2年度第2回吉川市総合教育会議を閉会といたします。ありがとうございました。

令和2年10月5日 令和2年度 第2回吉川市総合教育会議

吉川市総合教育会議要綱第5条第3項の規定により署名する。

令和2年10月5日

教育委員            鈴木 真理

教育委員            荒井 一美